

ファーストキャリアに向けて

工学系研究科システム量子工学専攻 2007 年留学

私は現在東京大学の工学系研究科の修士課程に通っています。最近では英語を使う機会もあまりありませんが、いつか使うときのために英語力はキープしていきたいと思います、海外ドラマを見ることをほぼ日課としています。おかげで最近はずっかり知識がつき、マニアの域に達しています。最初から脱線してしまいましたが、私は 2007 年 8 月から 2008 年 5 月までイリノイ大学で学びました。今年、2010 年の 4 月から NTT の研究所で働くことになりました。研究所では、詳しい分野まではまだわかりませんが、情報技術の研究開発に携わることとなるでしょう。この人生における初めてのキャリアの決定にも、イリノイ大学への留学は大きな影響を与えました。

私は大学では薬学部に所属していました。しかし、薬学の道に疑問を感じ、大学院では工学を専攻することにしました。そんな時期に、幸運にも JIC の奨学生としてイリノイ大学へ留学する機会を頂きました。留学中は、学部時代に学ぶことができなかつたエンジニア系の授業をとりたいと考え、イリノイ大学の名物分野だったこともあり、履修した授業はほとんどコンピューターサイエンスばかりでした。硬いイメージがもたれるエンジニアリングの授業ですが、授業には世界中から学生が集まっており、専攻を通して留学生の友人もできました。イリノイでコンピューターの魅力に目覚め、将来は情報学の研究職につきたいという気持ちが強くなり、就職活動では研究職を中心に企業を回り、第一志望であった研究機関の内定を頂くことができました。もしもイリノイ大学に行っていなかったら、私はこのような道に進まなかったと思います。大げさでもなんでもなく、イリノイ大学に留学したことは大きく私の人生を変えました。

文集に寄稿するに当たり、留学中はどのようなことをしていたかと改めて写真を見返したところ、酔っ払っているような写真ばかりが出てきました。それもそのはずで、思い返せば週 1 回はバーに行くような日々を送っていたように思います。Green Street にあった、Murphy's、Joe's、foobar、fireHaus、brother's、どのバーにも思い出があり、どのバーでも写真がありました。アメリカのバーのよいところは、そのときあった人とも盛り上がるということでしょうか。一緒によくバーに言った友人たちとは時々連絡を取り合っており、イリノイ大学で得た一番の財産は、やはり友人だなと感じます。

これから私の留学経験がどのように自分に生かされていくのか、まだ私にはわかりません。しかし、私はこれからも世界へ出て行きたいという気持ちがあります。現在は、いつかイリノイ大学の先生からも一目置かれるような研究者になれたらな、と少しの野望を抱いています。

最後に、写真を 1 枚だけ紹介したいと思います。右の写真は私が住んだ Sherman Hall の部屋から撮った写真です。毎日この景色を見て寝て、起きてこの景色を見ました。寮では、ビリヤードや DVD 鑑賞などして、友人にも恵まれ楽しく過ごせました。ただの風景ですが、私にはイリノイでの生活が思い起こされるような 1 枚です。

